



NetApp Element Plug-in for vCenter Server **をインストールして設定します** **VCP**

NetApp
November 18, 2025

目次

NetApp Element Plug-in for vCenter Server をインストールして設定します	1
vCenter Server 7.0以降にElement Plug-in 5.0以降をインストールして設定します	1
設置を準備	1
管理ノードをインストール	1
プラグインを vCenter に登録します	1
プラグインにアクセスし、インストールが正常に完了したことを確認します	4
プラグインで使用するストレージクラスタを追加します	5
プラグインを使用して QoSSIOC を設定します	6
ユーザアカウントを設定	7
データストアとボリュームを作成	7
Element Plug-in 4.10以前をインストールして設定します	7
設置を準備	7
管理ノードをインストール	7
プラグインを vCenter に登録します	8
ダークサイトの HTTP サーバの vCenter プロパティを変更します	11
プラグインにアクセスし、インストールが正常に完了したことを確認します	13
プラグインで使用するストレージクラスタを追加します	13
プラグインを使用して QoSSIOC を設定します	15
ユーザアカウントを設定	16
データストアとボリュームを作成	16
詳細については、こちらをご覧ください	16

NetApp Element Plug-in for vCenter Server をインストールして設定します

vCenter Server 7.0以降にElement Plug-in 5.0以降をインストールして設定します

NetApp Element Plug-in for vCenter Server 5.0以降では、最新バージョンのElement Plug-inをvCenterに直接インストールし、vSphere Web Clientを使用してプラグインにアクセスできます。

インストールが完了したら、Storage I/O Control に基づくサービス品質（QoSSIOC）サービスおよびvCenter Plug-in のその他のサービスを使用できます。

各手順を読んで完了し、プラグインのインストールと使用を開始します。

- [\[設置を準備\]](#)
- [\[管理ノードをインストール\]](#)
- [プラグインを vCenter に登録します](#)
- [\[プラグインにアクセスし、インストールが正常に完了したことを確認します\]](#)
- [\[プラグインで使用するストレージクラスタを追加します\]](#)
- [プラグインを使用して QoSSIOC を設定します](#)
- [\[ユーザアカウントを設定\]](#)
- [\[データストアとボリュームを作成\]](#)

設置を準備

インストールを開始する前に、を参照してください ["導入前の要件"](#)。

管理ノードをインストール

手動で実行できます ["管理ノードをインストール"](#) 構成に適したイメージを使用して、NetApp Element ソフトウェアを実行しているクラスタに対して実行します。

この手動プロセスは、管理ノードのインストールに NetApp Deployment Engine を使用していない SolidFire オールフラッシュストレージ管理者および NetApp HCI 管理者を対象としています。

プラグインを vCenter に登録します

vSphere Web Client に vCenter Plug-in パッケージを導入するには、vCenter Server でパッケージを拡張機能として登録する必要があります。登録が完了すると、vSphere 環境に接続されたすべての vSphere Web Client でこのプラグインを利用できるようになります。

必要なもの

- プラグインを登録するための vCenter Administrator ロールの権限が必要です。

- Elementソフトウェア12.3.x以降を実行する管理ノードOVAを導入しておきます。
- 管理ノードの電源をオンにして IP アドレスまたは DHCP アドレスを設定しておきます。
- SSH クライアントまたは Web ブラウザ（ Chrome 56 以降または Firefox 52 以降）を使用します。
- ファイアウォールルールでオープンが許可されている **"ネットワーク通信"** TCPポート443、8443、8333、9443にvCenterとストレージクラスタMVIPの間に配置されます。ポート 9443 は登録に使用され、登録完了後は閉じておかまいません。クラスタで仮想ボリューム機能を有効にした場合は、 VASA Provider アクセス用に TCP ポート 8444 も開いていることを確認してください。

このタスクについて

vCenter Plug-in は、そのプラグインを使用するすべての vCenter Server に登録する必要があります。

リンクモード環境では、MOBデータの同期を保ち、プラグインをアップグレードできるように、環境内の各vCenter Serverに別々のプラグインを登録する必要があります。接続先の vCenter Server にプラグインが登録されていない場合、vSphere Web Client にはプラグインが表示されません。



を使用してください **"vCenter リンクモード"**では、NetApp SolidFire ストレージクラスタを管理するvCenter Serverごとに、Element Plug-inを別の管理ノードから登録します。

手順

1. 登録用 TCP ポートを含む管理ノードの IP アドレスをブラウザに入力します。

[https://<managementNodeIP>:9443`](https://<managementNodeIP>:9443) にアクセスします

登録画面にプラグインの QoSSIOC サービスのクレデンシャルの管理ページが表示されます。

2. * オプション * : vCenter Plug-in を登録する前に QoSSIOC サービスのパスワードを変更します。
- a. Old Password には、QoSSIOC サービスの現在のパスワードを入力します。パスワードをまだ割り当てていない場合は、デフォルトのパスワードを入力します。

SolidFire

- b. [Submit Changes] を選択します。



変更を送信すると、QoSSIOC サービスが自動的に再開されます。

3. vCenter Plug-in Registration * を選択します。

NetApp Element Plug-in for vCenter Server Management Node

QoSSIOC Service Management vCenter Plug-in Registration

Manage vCenter Plug-in

- Register Plug-in
- Update Plug-in
- Unregister Plug-in
- Registration Status

vCenter Plug-in - Registration

Register version 5.0.0 of the NetApp Element Plug-in for vCenter Server with your vCenter server. The Plug-in will not be deployed until a fresh vCenter login after registration.

vCenter Address vCenter Server Address
Enter the IPv4, IPv6 or DNS name of the vCenter server to register plug-in on.

vCenter User Name vCenter Admin User Name
Ensure this user is a vCenter user that has administrative privileges for registration.

vCenter Password vCenter Admin Password
The password for the vCenter user name entered.

☐ Customize URL
Select to customize the Zip file URL.

Plug-in Zip URL <https://10.117.227.44:8333/ecp-ui/plugin.json>
URL of XML initialization file

REGISTER

Contact NetApp Support at <http://mysupport.netapp.com>

4. 次の情報を入力します。
- プラグインを登録する vCenter サービスの IPv4 アドレスまたは FQDN。
 - vCenter Administrator のユーザ名。



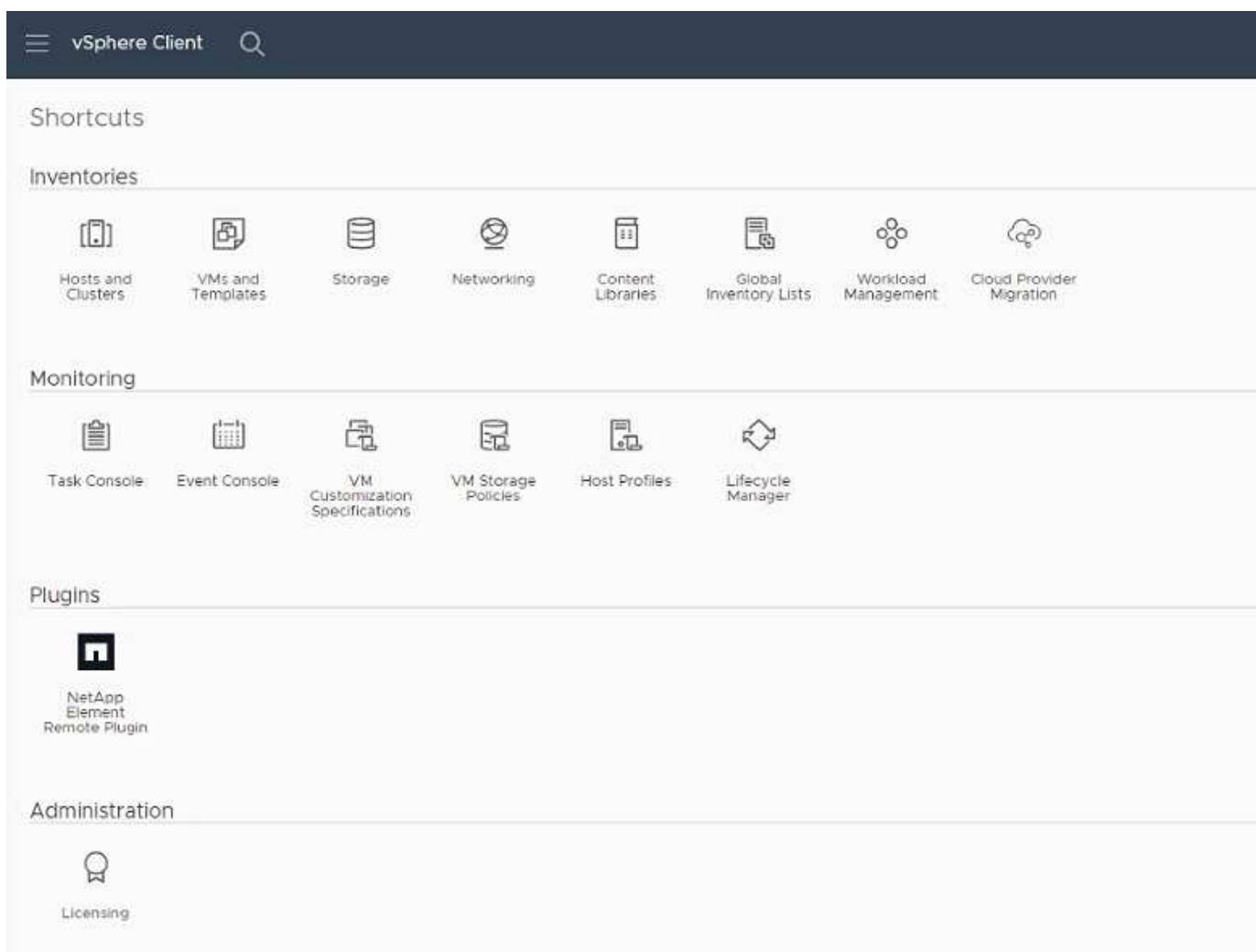
vCenter Administrator ロールの権限を持つユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

- vCenter Administrator のパスワード。

5. [*Register] を選択します。
6. (オプション) 登録ステータスを確認します。
 - a. [Registration Status](登録ステータス) を選択します。
 - b. 次の情報を入力します。
 - プラグインを登録する vCenter サービスの IPv4 アドレスまたは FQDN
 - vCenter Administrator のユーザ名。
 - vCenter Administrator のパスワード。
 - c. Check Status * を選択して、新しいバージョンのプラグインが vCenter Server に登録されていることを確認します。
7. vSphere Web Client で、タスクモニタで次のタスクが完了していることを確認します。「ダウンロードプラグイン」および「デプロイプラグイン」。

プラグインにアクセスし、インストールが正常に完了したことを確認します

インストールまたはアップグレードが完了すると、NetApp Element リモートプラグイン拡張ポイントがサイドパネルのvSphere Web Clientの[ショートカット]タブに表示されます。





vCenter Plug-inのアイコンが表示されない場合は、を参照してください ["トラブルシューティングに関するドキュメント"](#)。

プラグインで使用するストレージクラスタを追加します

NetApp Element リモートプラグイン拡張ポイントを使用して、Elementソフトウェアを実行するクラスタを追加および管理できます。

必要なもの

- IP アドレスまたは FQDN がわかっている使用可能な状態のクラスタが少なくとも 1 つ必要です。
- クラスタに対するフル権限を持つ現在のクラスタ管理者のユーザクレデンシャルが必要です。
- ファイアウォールルールによりオープンが許可されている ["ネットワーク通信"](#) TCPポート443、8333、および8443でvCenterとクラスタMVIPの間。



管理機能を使用するには、クラスタを少なくとも1つ追加する必要があります。

このタスクについて

この手順では、クラスタプロファイルを追加してクラスタをプラグインで管理する方法について説明します。プラグインを使用してクラスタ管理者のクレデンシャルを変更することはできません。

を参照してください ["クラスタ管理者ユーザアカウントの管理"](#) クラスタ管理者アカウントのクレデンシャルを変更する手順については、を参照してください。

手順

1. NetApp Element リモートプラグイン>構成>クラスタ*を選択します。
2. Add Cluster （クラスタの追加） * を選択します。
3. 次の情報を入力します。
 - * IP address/FQDN * : クラスタの MVIP アドレスを入力します。
 - * ユーザ ID * : クラスタ管理者のユーザ名を入力します。
 - * パスワード * : クラスタ管理者のパスワードを入力します。
 - * vCenter Server * : リンクモードグループを設定している場合、クラスタにアクセスする vCenter Server を選択します。リンクモードを使用していない場合は、現在の vCenter Server がデフォルトで選択されます。



- クラスタでは vCenter Server ごとに専用のホストを使用します。選択した vCenter Server から目的のホストにアクセスできることを確認してください。使用するホストをあとで変更する場合は、クラスタを削除し、別の vCenter Server に再割り当てして再度追加します。
- を使用してください ["vCenter リンクモード"](#)では、NetApp SolidFire ストレージクラスタを管理するvCenter Serverごとに、Element Plug-inを別の管理ノードから登録します。

4. 「 * OK 」を選択します。

処理が完了すると、クラスタが使用可能なクラスタのリストに表示され、 NetApp Element Management 拡張

ポイントで 사용할 수 있는ようになります。

プラグインを使用して QoSSIOC を 설정します

Storage I/O Control に基づいて 서비스品質의 자동化를 설정할 수 있습니다 " (QoSSIOC) " 플러그인으로 제어되는 각각의 볼륨 및 데이터 스토아인 경우. 이를 위해서는, QoSSIOC 및 vCenter의 자격 증명을 설정합니다. 이 자격 증명을 설정하면, QoSSIOC 서비스가 vCenter와 통신할 수 있게 됩니다.

このタスクについて

관리 노드에 대해 유효한 QoSSIOC 설정을 수행한 후에는, 그들의 설정이 기본이 됩니다. 새로운 관리 노드에 대해 유효한 QoSSIOC 설정을 지정할 때까지, QoSSIOC의 설정은 마지막으로 유효한 QoSSIOC 설정으로 돌아옵니다. 새로운 관리 노드의 QoSSIOC 자격 증명을 설정할 때는, 먼저 설정되어 있는 관리 노드의 QoSSIOC 설정을 지우는必要があります.

手順

1. NetApp Element 리모트 플러그인>설정> QoSSIOC 설정*를 선택합니다.
2. [* 액션 *]를 선택합니다.
3. 표시된 메뉴에서, * Configure * (설정*)를 선택합니다.
4. Configure QoSSIOC Settings * (QoSSIOC 설정*) 대화 상자에서, 다음 정보를 입력합니다.
 - * mNode IP Address/FQDN * : QoSSIOC 서비스가 포함되어 있는 클러스터의 관리 노드의 IP 주소입니다.
 - * mNode Port * : QoSSIOC 서비스가 포함되어 있는 관리 노드의 포트 주소입니다. 기본 포트는 8443입니다.
 - * QoSSIOC 사용자 ID * : QoSSIOC 서비스의 사용자 ID입니다. QoSSIOC 서비스의 기본 사용자 ID는 admin입니다. NetApp HCI의 경우, NetApp Deployment Engine을 사용한 인스턴스로 입력되는 사용자 ID와 동일합니다.
 - * QoSSIOC 비밀번호 * : Element QoSSIOC 서비스의 비밀번호입니다. QoSSIOC 서비스의 기본 비밀번호는 SolidFire입니다. 사용자 비밀번호를 생성하지 않은 경우는, 로그인 유틸리티의 UI (「https://[management node ip] : 9443」)에서 생성할 수 있습니다.
 - * vCenter User ID * : Administrator 역할의 모든 권한을 가진 vCenter 관리자의 사용자 이름입니다.
 - * vCenter Password * : Administrator 역할의 모든 권한을 가진 vCenter 관리자의 비밀번호입니다.
5. 「* OK」를 선택합니다.

플러그인이 서비스와 정상적으로 통신할 수 있는 경우는, [*QoSSIOC 상태*] 필드에 「업」으로 표시됩니다.



이 {url-peak} [KB]를 참조하여, 다음의 어느 하나의 상태에 있는지를 확인하고 상태를 트러블슈팅하십시오.

- Down : QoSSIOC는 무효입니다.
- Not Configured : QoSSIOC는 설정되어 있지 않습니다.
- Network Down : vCenter가 네트워크 상의 QoSSIOC 서비스와 통신할 수 없습니다. mNode 및 SIOC 서비스는 아직 실행 중인可能性があります.

QoSSIOC サービスを有効にすると、個々のデータストアで QoSSIOC パフォーマンスを設定できます。

ユーザアカウントを設定

ボリュームへのアクセスを有効にするには、少なくとも 1 つを作成する必要があります ["ユーザアカウント"](#)。

データストアとボリュームを作成

を作成できます ["データストアと Element ボリューム"](#) ストレージの割り当てを開始します。

詳細については、こちらをご覧ください

- ["NetApp HCI のドキュメント"](#)
- ["NetApp HCI のリソースページ"](#)
- ["SolidFire and Element Resources ページにアクセスします"](#)

Element Plug-in 4.10以前をインストールして設定します

NetApp Element Plug-in for VMware vCenter Server 4.10以前をvCenterに直接インストールし、vSphere Web Clientを使用してプラグインにアクセスできます。

インストールが完了したら、Storage I/O Control に基づくサービス品質（QoSSIOC）サービスおよび vCenter Plug-in のその他のサービスを使用できます。

各手順を読んで完了し、プラグインのインストールと使用を開始します。

- [\[設置を準備\]](#)
- [\[管理ノードをインストール\]](#)
- [プラグインを vCenter に登録します](#)
- [ダークサイトの HTTP サーバの vCenter プロパティを変更します](#)
- [\[プラグインにアクセスし、インストールが正常に完了したことを確認します\]](#)
- [\[プラグインで使用するストレージクラスを追加します\]](#)
- [プラグインを使用して QoSSIOC を設定します](#)
- [\[ユーザアカウントを設定\]](#)
- [\[データストアとボリュームを作成\]](#)

設置を準備

インストールを開始する前に、を参照してください ["導入前の要件"](#)。

管理ノードをインストール

手動で実行できます ["管理ノードをインストール"](#) 構成に適したイメージを使用して、NetApp Element ソフトウェアを実行しているクラスタに対して実行します。

この手動プロセスは、管理ノードのインストールに NetApp Deployment Engine を使用していない SolidFire オールフラッシュストレージ管理者および NetApp HCI 管理者を対象としています。

プラグインを vCenter に登録します

vSphere Web Client に vCenter Plug-in パッケージを導入するには、vCenter Server でパッケージを拡張機能として登録する必要があります。登録が完了すると、vSphere 環境に接続されたすべての vSphere Web Client でこのプラグインを利用できるようになります。

必要なもの

- vSphere 6.5 および 6.7 の場合は、vSphere Web Client からログアウトしていることを確認します。これらのバージョンの Web Client からログアウトしないと、このプロセスで行ったプラグインへの更新が認識されません。vSphere 7.0 では、Web Client からログアウトする必要はありません。
- プラグインを登録するための vCenter Administrator ロールの権限が必要です。
- Element ソフトウェア 11.3 以降を実行する管理ノード OVA を導入しておきます。
- 管理ノードの電源をオンにして IP アドレスまたは DHCP アドレスを設定しておきます。
- SSH クライアントまたは Web ブラウザ（Chrome 56 以降または Firefox 52 以降）を使用します。
- ファイアウォールルールでオープンが許可されている **"ネットワーク通信"** TCP ポート 443、8443、9443 で vCenter とストレージクラスタ MVIP の間に配置されます。ポート 9443 は登録に使用され、登録完了後は閉じてかまいません。クラスタで仮想ボリューム機能を有効にした場合は、VASA Provider アクセス用に TCP ポート 8444 も開いていることを確認してください。

このタスクについて

vCenter Plug-in は、そのプラグインを使用するすべての vCenter Server に登録する必要があります。

リンクモード環境では、MOB データの同期を保ち、プラグインをアップグレードできるようにするために、環境内の各 vCenter Server にプラグインを登録する必要があります。接続先の vCenter Server にプラグインが登録されていない場合、vSphere Web Client にはプラグインが表示されません。



NetApp Element Plug-in for vCenter Serverを使用して、を使用して他のvCenter Serverのクラスタリソースを管理する **"vCenter リンクモード"** はローカルストレージクラスタのみに制限されます。

手順

1. 登録用 TCP ポートを含む管理ノードの IP アドレスをブラウザに入力します。

[https://<managementNodeIP>:9443`](https://<managementNodeIP>:9443) にアクセスします

登録画面にプラグインの QoSSIOC サービスのクレデンシャルの管理ページが表示されます。

QoSSIOC Management

Manage Credentials
Restart QoSSIOC Service

Manage QoSSIOC Service Credentials

Old Password

Current password

Current password is required

New Password

New password

Must contain at least 8 characters with at least one lower-case and upper-case alphabet, a number and a special character like @\$%& *()-+=~!@

Confirm Password

Confirm New Password

New and confirm passwords must match

SUBMIT CHANGES

Contact NetApp Support at <http://mysupport.netapp.com>

2. * オプション * : vCenter Plug-in を登録する前に QoSSIOC サービスのパスワードを変更します。
 - a. Old Password には、QoSSIOC サービスの現在のパスワードを入力します。パスワードをまだ割り当てていない場合は、デフォルトのパスワードを入力します。

SolidFire

- b. [Submit Changes] を選択します。



変更を送信すると、QoSSIOC サービスが自動的に再開されます。

3. vCenter Plug-in Registration * を選択します。

Manage vCenter Plug-in

Register Plug-in
Update Plug-in
Unregister Plug-in
Registration Status

vCenter Plug-in - Registration

Register version of the NetApp Element Plug-in for vCenter Server with your vCenter server.
The Plug-in will not be deployed until a fresh vCenter login after registration.

vCenter Address

vCenter Server Address

Enter the IPv4, IPv6 or DNS name of the vCenter server to register plug-in on.

vCenter User Name

vCenter Admin User Name

Ensure this user is a vCenter user that has administrative privileges for registration.

vCenter Password

vCenter Admin Password

The password for the vCenter user name entered.

☐ Customize URL
Select to customize the Zip file URL.

Plug-in Zip URL

https://10.117.227.12:9443/solidfire-plugin-4.6.0-bin.zip

URL of XML initialization file

REGISTER

Contact NetApp Support at <http://mysupport.netapp.com>

4. 次の情報を入力します。

- プラグインを登録する vCenter サービスの IPv4 アドレスまたは FQDN。
- vCenter Administrator のユーザ名。



vCenter Administrator ロールの権限を持つユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

- vCenter Administrator のパスワード。
- (社内サーバ / ダークサイトの場合) プラグインの ZIP のカスタム URL。



ほとんどのインストールではデフォルトパスが使用されます。HTTP または HTTPS サーバ (ダークサイト) を使用している場合、または ZIP ファイル名やネットワーク設定を変更した場合は、「* カスタム URL *」を選択して URL をカスタマイズします。URL をカスタマイズする場合の追加手順については、を参照してください [ダークサイトの HTTP サーバの vCenter プロパティを変更します](#)。

5. [*Register] を選択します。

6. (オプション) 登録ステータスを確認します。

- [Registration Status](登録ステータス) を選択します。
- 次の情報を入力します。
 - プラグインを登録する vCenter サービスの IPv4 アドレスまたは FQDN

- vCenter Administrator のユーザ名。
 - vCenter Administrator のパスワード。
- c. Check Status * を選択して、新しいバージョンのプラグインが vCenter Server に登録されていることを確認します。
7. (vSphere 6.5 および 6.7 ユーザ) vCenter Administrator として vSphere Web Client にログインします。



この操作で vSphere Web Client でのインストールが完了します。vCenter Plug-in のアイコンが vSphere に表示されない場合は、[を参照してください "トラブルシューティングに関するドキュメント"](#)。

8. vSphere Web Client で、タスクモニタで次のタスクが完了していることを確認します。「ダウンロードプラグイン」および「デプロイプラグイン」。

ダークサイトの HTTP サーバの vCenter プロパティを変更します

vCenter Plug-in の登録時に社内（ダークサイト）の HTTP サーバの URL をカスタマイズする場合は、vSphere Web Client のプロパティファイル「webclient.properties」を変更する必要があります。vCSA または Windows を使用して変更を行うことができます。

必要なもの

ネットアップサポートサイトからソフトウェアをダウンロードする権限。

vCSA を使用した手順

1. SSH で vCenter Server に接続します。

```
Connected to service
* List APIs: "help api list"
* List Plugins: "help pi list"
* Launch BASH: "shell"
Command>
```

2. コマンドプロンプトで「地獄」と入力して root にアクセスします。

```
Command> shell
Shell access is granted to root
```

3. VMware vSphere Web Client サービスを停止します。

```
service-control --stop vsphere-client
service-control --stop vsphere-ui
```

4. ディレクトリを変更します。

```
cd /etc/vmware/vsphere-client
```

5. webclient.properties` ファイルを編集し 'allowHttp=true' を追加します
6. ディレクトリを変更します。

```
cd /etc/vmware/vsphere-ui
```

7. webclient.properties` ファイルを編集し 'allowHttp=true' を追加します
8. VMware vSphere Web Client サービスを起動します。

```
service-control --start vsphere-client  
service-control --start vsphere-ui
```



登録手順が完了したら、変更したファイルから「allowHttp=true」を削除してかまいません。

9. vCenter をリブートします。

Windows を使用した手順

1. コマンドプロンプトからディレクトリを変更します。

```
cd c:\Program Files\VMware\vCenter Server\bin
```

2. VMware vSphere Web Client サービスを停止します。

```
service-control --stop vsphere-client  
service-control --stop vsphere-ui
```

3. ディレクトリを変更します。

```
cd c:\ProgramData\VMware\vCenterServer\cfg\vsphere-client
```

4. webclient.properties` ファイルを編集し 'allowHttp=true' を追加します
5. ディレクトリを変更します。

```
cd c:\ProgramData\VMware\vCenterServer\cfg\vsphere-ui
```

6. webclient.properties` ファイルを編集し 'allowHttp=true' を追加します

7. コマンドプロンプトからディレクトリを変更します。

```
cd c:\Program Files\VMware\vCenter Server\bin
```

8. VMware vSphere Web Client サービスを起動します。

```
service-control --start vsphere-client  
service-control --start vsphere-ui
```

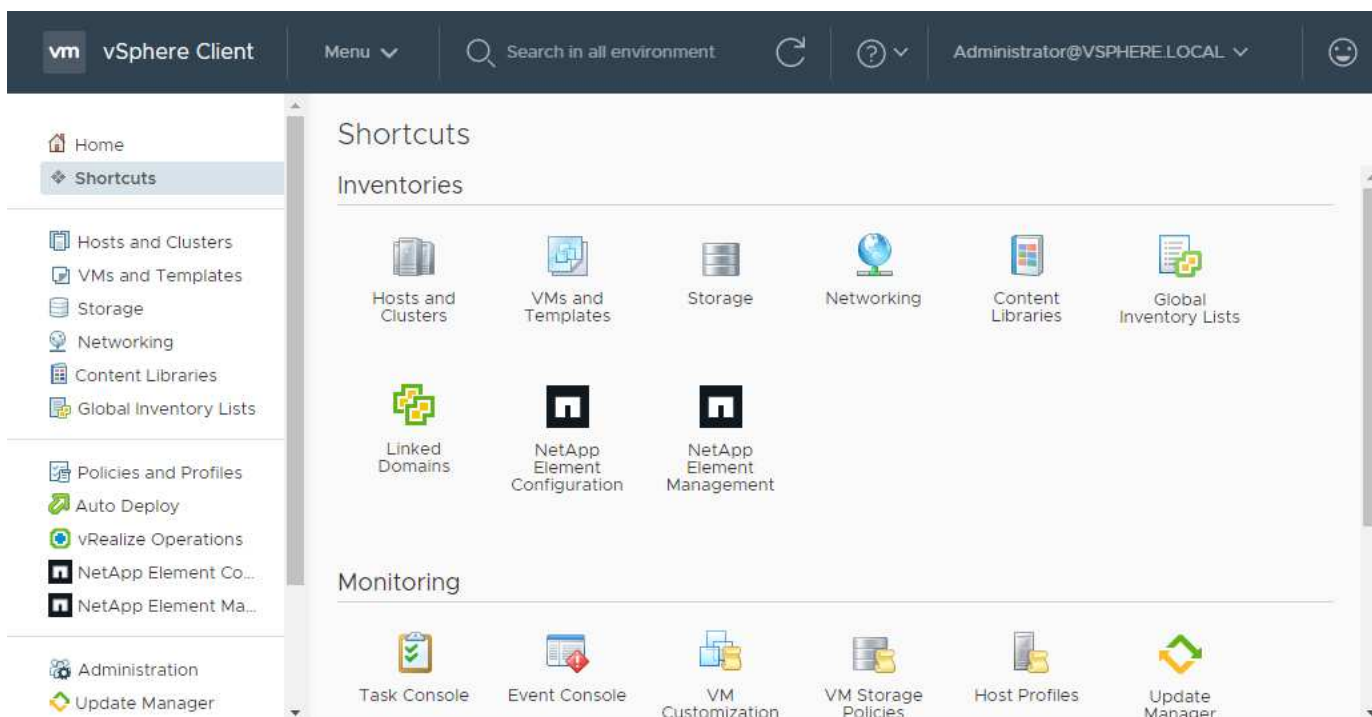


登録手順が完了したら、変更したファイルから「allowHttp=true」を削除してかまいません。

9. vCenter をリブートします。

プラグインにアクセスし、インストールが正常に完了したことを確認します

インストールまたはアップグレードが完了すると、NetApp Element の設定および管理拡張ポイントが vSphere Web Client のショートカットタブとサイドパネルに表示されます。



vCenter Plug-inのアイコンが表示されない場合は、を参照してください["トラブルシューティングに関するドキュメント"](#)。

プラグインで使用するストレージクラスタを追加します

NetApp Element Configuration 拡張ポイントを使用して、Element ソフトウェアを実行しているクラスタを追加して、プラグインで管理できるようにすることができます。

クラスタへの接続が確立されると、そのクラスタを NetApp Element 管理拡張ポイントを使用して管理できるようになります。

必要なもの

- IP アドレスまたは FQDN がわかっている使用可能な状態のクラスタが少なくとも 1 つ必要です。
- クラスタに対するフル権限を持つ現在のクラスタ管理者のユーザクレデンシャルが必要です。
- ファイアウォールルールによりオープンが許可されている **"ネットワーク通信"** TCP ポート 443 および 8443 で vCenter とクラスタ MVIP の間。



NetApp Element Management 拡張ポイントの機能を使用するには、クラスタが少なくとも 1 つ追加されている必要があります。

このタスクについて

この手順では、クラスタプロファイルを追加してクラスタをプラグインで管理する方法について説明します。プラグインを使用してクラスタ管理者のクレデンシャルを変更することはできません。

を参照してください **"クラスタ管理者ユーザアカウントの管理"** クラスタ管理者アカウントのクレデンシャルを変更する手順については、を参照してください。



vSphere HTML5 Web Client と Flash Web Client は別々のデータベースを使用しており、両データベースを統合することはできません。一方のクライアントに追加したクラスタは、もう一方のクライアントで認識されません。両方のクライアントを使用する場合は、両方にクラスタを追加してください。

手順

1. NetApp Element Configuration > Clusters * を選択します。
2. Add Cluster （クラスタの追加） * を選択します。
3. 次の情報を入力します。
 - * IP address/FQDN * : クラスタの MVIP アドレスを入力します。
 - * ユーザ ID * : クラスタ管理者のユーザ名を入力します。
 - * パスワード * : クラスタ管理者のパスワードを入力します。
 - * vCenter Server * : リンクモードグループを設定している場合、クラスタにアクセスする vCenter Server を選択します。リンクモードを使用していない場合は、現在の vCenter Server がデフォルトで選択されます。



- クラスタでは vCenter Server ごとに専用のホストを使用します。選択した vCenter Server から目的のホストにアクセスできることを確認してください。使用するホストをあとで変更する場合は、クラスタを削除し、別の vCenter Server に再割り当てして再度追加します。
- NetApp Element Plug-in for vCenter Server を使用して、を使用して他の vCenter Server のクラスタリソースを管理する **"vCenter リンクモード"** はローカルストレージクラスタのみに制限されます。

4. 「* OK 」を選択します。

処理が完了すると、クラスタが使用可能なクラスタのリストに表示され、 NetApp Element Management 拡張

ポイントで使用できるようになります。

プラグインを使用して QoSSIOC を設定します

Storage I/O Control に基づいてサービス品質の自動化を設定できます " (QoSSIOC) " プラグインで制御される個々のボリュームおよびデータストアの場合。これを行うには、QoSSIOC と vCenter のクレデンシャルを設定します。このクレデンシャルを設定すると、QoSSIOC サービスが vCenter と通信できるようになります。

このタスクについて

管理ノードに対して有効な QoSSIOC 設定を行ったあとは、それらの設定がデフォルトになります。新しい管理ノードに対して有効な QoSSIOC 設定を指定するまで、QoSSIOC の設定は最後に有効な有効な QoSSIOC 設定に戻ります。新しい管理ノードの QoSSIOC クレデンシャルを設定する場合は、先に設定されている管理ノードの QoSSIOC 設定をクリアする必要があります。

手順

1. NetApp Element Configuration > QoSSIOC Settings * の順に選択します。
2. [* アクション *] を選択します。
3. 表示されたメニューで、 * Configure * (設定 *) を選択します。
4. Configure QoSSIOC Settings * (QoSSIOC 設定 *) ダイアログボックスで、次の情報を入力します。
 - * mNode IP Address/FQDN * : QoSSIOC サービスが含まれているクラスタの管理ノードの IP アドレスです。
 - * mNode Port * : QoSSIOC サービスが含まれている管理ノードのポートアドレスです。デフォルトのポートは 8443. です。
 - * QoSSIOC ユーザー ID * : QoSSIOC サービスのユーザー ID です。QoSSIOC サービスのデフォルトのユーザ ID は admin です。NetApp HCI の場合、NetApp Deployment Engine を使用したインストールで入力されるユーザ ID と同じです。
 - * QoSSIOC パスワード * : Element QoSSIOC サービスのパスワードです。QoSSIOC サービスのデフォルトのパスワードは SolidFire です。カスタムパスワードを作成していない場合は、登録ユーティリティの UI (「https://[management node ip] : 9443」) から作成できます。
 - * vCenter User ID * : Administrator ロールのすべての権限を持つ vCenter 管理者のユーザ名です。
 - * vCenter Password * : Administrator ロールのすべての権限を持つ vCenter 管理者のパスワードです。
5. 「 * OK 」を選択します。

プラグインがサービスと正常に通信できる場合は、[*QoSSIOC ステータス *] フィールドに「アップ」と表示されます。



この {url-peak} [KB^]を参照して、次のいずれかのステータスになっているかどうかをトラブルシューティングしてください。

- Down : QoSSIOCは無効です。
- Not Configured : QoSSIOCは設定されていません。
- Network Down : vCenterがネットワーク上のQoSSIOCサービスと通信できません。mNode と SIOC サービスはまだ実行されている可能性があります。

QoSSIOC サービスを有効にすると、個々のデータストアで QoSSIOC パフォーマンスを設定できます。

ユーザアカウントを設定

ボリュームへのアクセスを有効にするには、少なくとも 1 つを作成する必要があります ["ユーザアカウント"](#)。

データストアとボリュームを作成

を作成できます ["データストアと Element ボリューム"](#) ストレージの割り当てを開始します。

詳細については、こちらをご覧ください

- ["NetApp HCI のドキュメント"](#)
- ["NetApp HCI のリソースページ"](#)
- ["SolidFire and Element Resources ページにアクセスします"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。